

令和5年度 福祉教育推進事業担当者会議

以下のとおりご確認と必要書類のご提出をお願いいたします。

- 1 令和5年度 福祉教育関係事業の年間スケジュール・・・資料1
- 2 令和5年度福祉教育推進校事業の実施に伴う補助金交付申請書等の提出について（依頼）
○ご提出は郵送（交換便 NG）および電子メールでお願いします。
※提出書類をご確認の上、5月30日（火）必着でご提出ください。
- 3 福祉教育推進事業実施要綱・・・資料2
○児童・生徒を対象に社会福祉に関する実践学習の機会の提供や地域福祉活動への理解促進のため、1校につき上限3万円を交付します。
○要綱と予算執行に関する Q&A をご確認の上、必要書類を作成・ご提出ください。
※令和5年度から、要綱を変更しています。
- 4 福祉教育推進校 様式 ダウンロード方法
○様式のデータ（Word）のダウンロードは記載のとおりです。
- 5 令和4年度 福祉教育推進校事業参加校事業実績一覧・・・資料2-1
○令和4年度に行われた各校の事業一覧になります。福祉教育推進のため各校の取り組みをご参考ください。
- 6 児童・生徒の福祉実践教室実施要綱・・・資料3
○児童・生徒が障がい者や高齢者などの当事者から話を聞いたり、実際に疑似体験する機会を提供します。授業までの流れについては「福祉実践教室の進め方」をご確認ください。
- 7 令和4年度 福祉実践教室実施状況・・・資料4
○令和2年度から令和4年度の実施校数、延べ日数、延べ体験者数の実績の比較と、体験科目別の前年度実績とを比較した実施状況です。
- 8 福祉実践教室教員向け研修会 日程表・・・資料5
○先生方に、福祉実践教室で行う授業を体験していただき、福祉実践教室の必要性や授業を行う際の注意事項などを知っていただきます。

- 9 「福祉」の授業に取り組まれる先生のためのハンドブック・・・資料6
○疑似体験を中心に行う福祉実践教室とは違い、当事者の生活や障がいの特性などの話をしっかり聞き、疑似体験を行い、学びの振り返りを行うなど、「事前学習」、「疑似体験」、「事後学習」を一連のプログラムとして提供します。

検索：『岡崎市教育ポータルサイト OK リンク』の各種出前講座
➡岡崎市社会福祉協議会にハンドブック、申請書のデータがあります。

- 10 令和4年度 福祉教育プログラム実施状況・・・資料7
○令和2年度から令和4年度の実施校数、延べ日数、延べ体験者数、科目別実績を比較した実施状況です。
- 11 令和5年度福祉体験作文コンクール・・・資料8
(5月2日に学校宛にメール送付済み)
○募集要項に沿って、応募下さい。応募は、令和5年9月15日(金)までに岡崎市社会福祉協議会ボランティアセンターにご提出下さい。
- 12 手話通訳者、要約筆記奉仕員派遣事業について
○児童・生徒や保護者に聴覚障がいのある方がいる場合に利用できる事業です。詳細はパンフレットと記入例をご確認ください。

岡崎市社会福祉協議会 ボランティアセンター

〒444-0802 岡崎市美合町五本松 68-12 (岡崎市社会福祉センター1階)

TEL : 47-7955 FAX : 47-4956 E-mail : vc@okazaki-shakyo.jp

令和5年度 福祉教育関係事業 年間スケジュール

時 期	内 容	
5月2日(火)	福祉体験作文コンクール通知	5月2日メールにて送付
5月12日(金)	福祉教育推進校担当教諭会議 ・関係事業や事務手続き等の説明	Z o o m
5月30日(火)	福祉教育推進校補助金交付申請書締切(必着)	
6月中旬	福祉教育推進事業補助金送金	
6月中旬	赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール出品依頼	
8月4日(金) 8日(火)	福祉実践教室担当教諭研修会	社会福祉センター
9月上旬	赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール応募締切	
9月15日(金)	福祉体験作文コンクール応募締切	
11月22日(水) ～ 11月26日(日)	赤い羽根作品コンクール作品展 ※学校推薦全作品	岡崎市美術館
12月5日(火)	赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール優秀作品表彰式	社会福祉センター 多目的室
2月中旬	福祉教育推進校事業実施報告書提出依頼文書の送付	
3月中旬	実施報告書等書類提出締切 (実績報告、事業報告、決算書、領収書)	

福祉教育推進校長 様

社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会
会 長 太 田 俊 昭

令和 5 年度福祉教育推進校事業の実施に伴う補助金交付申請書等
の提出について（依頼）

新緑の候、貴職におかれましては御健勝のこととお喜び申し上げます。

日ごろは、当協議会事業の推進に多大な御理解、御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、令和 5 年度福祉教育推進事業の実施について、補助金交付申請書等を
下記のとおり御提出くださいますようお願いいたします。

記

- 1 提出書類
 - ・福祉教育推進校事業補助金交付申請書（様式 1）
 - ・事業計画書
 - ・収支予算書
 - ・振込先となる通帳のコピー（表紙と 1 ページ目）
- 2 提出期限 令和 5 年 5 月 30 日（火）必着
- 3 提出先 岡崎市社会福祉協議会ボランティアセンター
〒444-0802
美合町五本松 68-12（社会福祉センター1 階）
岡崎市社会福祉協議会 額田支所
〒444-3622
榎山町山ノ神 10-1（ぬかた会館内）
- 4 その他 補助金については 6 月中旬に全額送金の予定です。

《お問い合わせ先》

岡崎市社会福祉協議会ボランティアセンター [担当：酒井・石川法]
電話 47-7955 FAX47-7956

福祉教育推進事業実施要綱

1 目的

市内の小学校、中学校及び高等学校等（公立、私立、高等部を含む。）を福祉教育推進校として指定し、在校児童・生徒を対象に、社会福祉に関する実践学習の機会や活動しやすい環境を提供し、地域福祉活動への理解と関心を高め、ボランティア活動への参加をとおして広く国際的、人類的視野での人格形成を目指すとともに、人間に対する優しさと豊かな心を育て、社会連帯並びに地域社会との連携の精神を養うことを目的とする。

2 実施主体

社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会（以下「社協」という。）

3 主な活動内容

学校内、外において福祉活動として必要な「交流・体験」、「広報・啓発」、「収集・募金」、「参加の促進」に関する内容とする。

〔別紙 1〕「活動内容区分」参照

4 推進校の指定

当該事業の指定については、毎年度未指定校に対し希望調査を行い、翌年度の福祉教育推進校の指定を希望する学校のなかから指定する。

指定を受けた学校は、申し出がない限り、毎年度継続して当該事業に取り組むものとする。

5 補助額

福祉教育推進校に対し、福祉教育推進事業にかかる経費を 1 校につき 30,000 円を上限に交付する。

学校長は、この経費を別に定める〔別紙 2〕「補助金の使途例示」に基づき計画的かつ適正に執行しなければならない。

6 補助金の申請

補助金の交付申請については、福祉教育推進事業補助金交付申請書（様式 1）に、次に掲げる書類を添え、会長が別に定める日までに提出しなければならない。

- (1) 福祉教育推進事業計画書
- (2) 福祉教育推進事業収支予算書
- (3) 振込先の通帳コピー

7 交付決定

会長は、前条の申請を審査し、適当と認めた場合は、補助金交付通知書（様式2）を送付する。

8 事業実績報告書の提出

福祉教育推進事業精算兼実績報告書（様式3）に、次に掲げる書類を添え、会長が別に定める日までに提出しなければならない。

- (1) 福祉教育推進事業計報告書
- (2) 福祉教育推進事業収支決算書
- (3) 領収書のコピー

9 補助金の返還

会長は、申請団体が次の各号に該当する場合は補助金の交付決定額の全部もしくは一部を取消し、又は既に交付した補助金の全部もしくは一部を返還（様式4）させることができる。

- (1) この要綱又は交付決定に付した条件に違反したとき。
- (2) 補助金を補助目的以外に使用したとき。
- (3) 提出書類に虚偽の事項を記載し又は、補助金の交付に関し不正な行為があったとき。
- (4) 決算額が補助額に比して減少したとき。
- (5) 補助事業を中止したとき。

10 その他

この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要綱は平成17年4月1日から施行する。

この要綱は平成20年4月1日から施行する。

この要綱は平成26年4月1日から施行する。

この要綱は平成31年4月1日から施行する。

この要綱は令和5年4月1日から施行する。

【活動内容区分】

A 校内活動	① 交流・体験	<p>ア) 地域の高齢者（一人暮らし、老夫婦世帯等）へのお便り活動</p> <p>イ) 地域の高齢者・障がい者等を学校行事に招待又は、お話の講師として招く</p> <p>ウ) クラブ活動等による点字・点訳活動</p> <p>エ) 福祉実践教室や福祉教育プログラム（点字、手話、要約筆記、車いすガイド等）の開催</p> <p>オ) 点字、手話、各種ガイド等のボランティア講座、看護・介助実習の実施</p> <p>カ) 他の指定校や学区福祉委員会や老人クラブ等との交流会や勉強会、福祉体験活動、合同催事</p>
	② 広報・啓発	<p>ア) 福祉に関する講演会、映画会、展示会、体験発表や活動報告会等の開催</p> <p>イ) 福祉に関する各種調査（校内の児童・生徒及び校外での意識調査等）</p> <p>ウ) 学校新聞（福祉新聞）、福祉ポスターや標語等の募集、福祉体験感想文、ボランティアニュースづくり</p> <p>エ) 国際ボランティアの活動調査や国際異文化交流の活動発表</p>
	③ 収集・募金	<p>ア) 赤い羽根募金、歳末たすけあいなどの募金活動</p> <p>イ) 災害による被災地、ユニセフ、難民・開発途上国への募金・物品援助等</p> <p>ウ) 福祉施設や福祉関係団体への募金・物品援助等</p> <p>③は、収集や募金後の使われ方や実体験の学習につながる活動の実施が必須</p>
B 校外活動	① 交流・体験	<p>ア) 福祉施設等への訪問・交流（児童、高齢者、障がい者等）、施設行事への参加</p> <p>イ) 特別支援学校、ろう学校、盲学校との交流活動</p> <p>ウ) 一人暮らし高齢者宅への訪問、交流活動</p> <p>エ) 地域住民との福祉交流への参加</p>

※本要綱の「福祉活動」とは、児童、高齢者、障がい者、地域住民、福祉関係者等との交流や自主的な体験学習・福祉学習、ボランティア活動とする。

【対象とならない費用の例】

- ・通常、学校の運営に必要となる物品の購入費用（清掃道具等）
- ・学校の緑化活動が目的の花や苗や腐葉土の購入費用
- ・福祉の要素を含まない農業体験、掃除活動、資源回収に関する費用
- ・福祉の要素を含まない地域の歴史や文化学習に関する費用

福祉教育推進事業補助金の使途例示

項 目	使 途	
会 議 費	講師や交流参加者の飲み物、茶菓子代	
旅 費	事業に関わる担当教諭及び生徒・児童等の旅費、バス代	
謝 金	福祉講演会・研修会の講師	
事 業 費	消 耗 品 費	画用紙、原稿用紙、折り紙、マジック、サインペン、 インクカートリッジ、鉛筆、絵の具、アルバム等の購入代
	通信運搬費	ハガキ、切手等の購入、物品の運搬代
	賃 借 料	会場等使用料
	印刷製本費	活動報告集、感想文集等作成費、印刷物等諸費
	調査研究費	研修会等参加費、参考図書・資料購入代、 映画・ビデオ等借上料
役 務 費	ボランティア保険、行事用保険等	

1. 補助金の使途について

(1) 福祉に関する活動が対象です。

2. 補助金申請の執行について

(1) 学校行事やPTA行事等の他経費との混同を避け、原則として福祉教育推進校事業独自の通帳で管理してください。

(2) 旅費額等は、各学校の規程等にて執行し、旅費額の算定根拠となる資料を添付してください。

(3) 年度末に提出いただく実施報告書（経費内訳）には、領収書のコピーを添付してください。なお、領収書が添付することができない場合には、学校長の支払い証明書を添付してください。

(様式1)

第 号
令和 年 月 日

令和 年度 福祉教育推進事業補助金交付申請書

(宛先)

社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会長

所在地.....
学校名.....
校長名.....

令和 年度において、福祉教育推進事業を行うため、次のとおり補助金の申請を
します。

1 補助申請額 _____ 円

2 事業目的

3 事業内容

- 4 添付書類
- ・福祉教育推進事業計画書
 - ・福祉教育推進事業収支予算書
 - ・振込先の通帳のコピー

5 補助金振込先

金融機関名	
支店名	
口座番号	普通預金 No.
フリガナ 口座名義	

令和 年度 福祉教育推進事業計画書

学 校 名			
所 在 地	岡崎市		
電 話 番 号	—	F A X 番 号	—
担当教諭名		郵 便 番 号	4 4 4 —
全校生徒数	名	学 級 数	クラス
学年別生徒数	1 年 生 名、 4 年 生 名、	2 年 生 名、 5 年 生 名、	3 年 生 名、 6 年 生 名

活動区分	事 業 名	実 施 月 日	参 加 生 徒 数	事 業 内 容
例) B-①-ウ	一人暮らし高齢者訪問事業	○月○日	○名	○年生が学区の対象者に手紙を書き、訪問して交流する。

※活動区分は別紙1「活動内容区分」をご参照ください。

(様式2)

岡社協第 号
年 月 日

校長 学校 様

社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会
会 長

年度福祉教育推進事業の補助金交付の決定について（通知）

年 月 日付け第 号で申請のありました福祉教育推進校事業補助金について、下記のとおり交付決定しました。

記

- 1 補助金額 円
- 2 送金予定日 年 月 日

(様式3)

第 号
令和 年 月 日

令和 年度 福祉教育推進事業精算兼実績報告書

(宛先)

社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会長

所在地.....

学校名.....

校長名.....

令和 年 月 日付け岡社協第 号で補助金等の交付決定を受けた事業が完了しましたので、次のとおり報告いたします。

1 補助金残額 _____ 円

2 事業効果及び課題.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

3 添付書類

- ・福祉教育推進事業報告書
- ・福祉教育推進事業収支決算書
- ・領収書のコピー、資料等

令和 年度 福祉教育推進事業収支決算書

学校名 [_____]

【収入の部】

(単位：円)

項 目	金 額	説 明
市社協補助金		
合 計		

【支出の部】

項 目	金 額	説 明
1 会 議 費		
2 旅 費 等		
3 講 師 等 謝 金		
4 事 務 費		
事 業 費 内 訳	① 消 耗 品 費	
	② 通 信 運 搬 費	
	③ 印 刷 製 本 費	
	④ 調 査 資 料 代	
	⑤	
	⑥	
	⑦	
5		
6		
7		
合 計		

*領収書のコピーを添付してください。

交通費等領収書の無い場合は、学校長の証明を添付してください。

(様式4)

岡社協第 号
年 月 日

校長 学校 様

社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会
会 長

年 月 日付けで交付決定した福祉教育推進事業補助金について、福祉教育推進事業実施要綱に基づき下記のとおり補助金の返還を請求します。

記

1. 補助金返還決定額 金 円

2. 返 還 の 理 由

3. 返 還 期 日 年 月 日

福祉教育推進事業 予算執行に関するQ&A

区分	内 容
物品購入	Q. 高齢者施設へ生徒が訪問する際に和太鼓を叩く。その太鼓のばちの購入費用として充ててよいか。
	A. 認められません。太鼓は日ごろの学校活動の中で取り組まれている文化伝統の継承であり、福祉にかかる費用とは認められません。
	Q. デジタルカメラを購入したい。
	A. 認められません。 原則、学校の備品となるものの購入に充てることはできません。
	Q. 校外の美化活動のための清掃道具を購入したい。
	A. 認められません。通常の学校活動で使用するはずの清掃道具を本事業で購入することはできません。
	Q. パソコンのインクを購入したい。
	A. 印刷物があるのであれば認められます。
	Q. 補助金で車いすを購入し、施設に寄付したいが認められるか。
	A. 補助金を他団体等への寄付（物品含む）、補助に充てることは認められません。
講師料等	Q. 社協を介さずに福祉の体験講座を実施した。その際の講師料として充ててよいか。
	A. 認めます。しかし、福祉実践教室での取り扱いがふさわしいと思われる授業については、次年度から福祉実践教室として取り組まれるようお願いいたします。
	Q. 福祉実践教室の講師にガソリン代等の交通費を支払ってよいか。
	A. 講師にかかる費用は社協が支払っています。そのためガソリン代やバス代等を本事業の補助金からお支払いいただくことはできません。ただし、本事業の予算ではなく、学校独自の予算で交通費等の支払いをされる場合には、社協が介入することはありません。
	Q. 福祉実践教室の講師に出したお茶菓子の代金は認められるか。
	A. 認めます。また、少額の手土産についても認めます。社会通念上、認められると思われる範囲に限ります。
	Q. 講師の方への花束のプレゼントは認められるか。
	A. 認められません。また、プレゼント用の花鉢も認められません。 プレゼントのために計画的に学校で育てた花であれば認めます。
会計の処理	Q. 補助金の一部が余ってしまったがどのような手続きが必要か。
	A. 補助金の精算報告書に補助金残額をご記入いただいた場合、その金額の返還請求書を学校へお送りしますので、それに基づき返戻してください。
	Q. 領収証の合計額が 30,000 円を超えてしまうが…。
	A. 本会からの補助金が何に使われたかを明瞭にいただければ、領収証の形にこだわるものではありません。

福祉教育推進校 様式 ダウンロード方法

- ① 「岡崎市社会福祉協議会」で検索
- ② トップページ左枠の「ボランティア」→「ボランティアセンター」をクリック
- ③ 「各種ダウンロード」をクリック
- ④ 福祉教育推進校 「様式（申請書類）」をクリック



令和4年度 福祉教育推進校事業参加校 事業実績一覧

資料2-1

No	学校名	区分	事業名	内容
1	梅園小学校	A-②-オ	JRC入会式	ボランティア活動の意義や重要性について考える会
		A-③-イ	赤い羽根募金活動	委員会による赤い羽根配布と募金活動
		A-③-エ	服のチカラプロジェクト	古着の回収、開発途上国への物品援助
2	根石小学校	A-③-ア・ウ	ベルマーク、ベトボトルキャップ、ブルタブの収集活動	収集し、災害地援助やワクチン、被災地の地域援助に役立てた
		A-①-エ	ふれあいフェスタ	地域の方を講師に迎え、車いす体験やお年寄りと交流
3	男川小学校	A-①-オ	福祉実践教室	車いす、高齢者体験、視覚障がいガイドや手話を学んだ
		A-①-カ	ボランティアによる読み聞かせ活動	学区ボランティアサークル「もこもこ」による本の読み聞かせ活動
		A-③-イ	赤い羽根募金	募金を全校に呼びかけ、代表委員が回収、集計
4	美合小学校	A-①-キ	パラスポーツ体験	6年生がパラスポーツ「ボッチャ」「ハンドテニス」を体験
		A-①-カ	アイシン環境プログラム	アイシンの方から、真水の貴重さ、野生生物への環境の影響を学び、生活を見直した
		B-①-エ	敬老会	学区のお年寄り約900人の方へ長寿を祝う手紙を書き、配付した
5	緑丘小学校	A-③-オ	赤い羽根共同募金	代表委員会が中心となり、全校に呼び掛けた
		A-①-ア	学区敬老会	地域の高齢者宛に絵手紙を届けた
		B-①-ア	施設訪問	コロナ禍だったため、高年者センターで演奏会する予定だった演奏をDVDで送った
6	羽根小学校	B-1-イ	交流活動	みあい特別支援学校との交流
		A-①-キ	高齢者体験	6年生が昨年学んだ高齢者体験活動を、5年生を対象にして行った
		A-①-イ	福祉に関する学習活動	福祉読本を活用し、障がい者や児童に関する福祉について学習した
7	岡崎小学校	A-①-ア	福祉に関する学習活動	各自追究した内容を発表した
		A-①-キ	学区交流会	学区の小中学校の支援学級の児童・生徒と、オンラインやビデオ視聴にて交流した
		A-①-ア	学区福祉委員会	学区の高齢者の方に、手紙を書いて渡した
8	六名小学校	A-①-オ	ブルタブ収集運動	奉仕委員会が中心となり、ブルタブを集め、車いすの購入する活動に参加した
		A-①-ア	学区お年寄りへの手紙	学区のお年寄りに手紙を書いて渡した
		A-①-キ	交通指導員感謝の会	交通指導員さんに日頃の感謝の気持ちを伝える
9	三島小学校	B-①-ウ	学区老人介護施設訪問	介護施設に手紙や折り紙をプレゼントした
		B-①-イ	盲学校との交流会	4年生が盲学校周辺の見学を行った
		B-①-イ	盲学校との交流会	4年生が盲学校の様子を聞いたり、点字の学習・アイマスク体験をした
10	竜美丘小学校	A-①-エ	福祉教育プログラム	5年生が車いす体験を行い、介助の必要性に気付くことができた
		A-①-エ	福祉実践教室	講師を招いて、車いすや高齢者疑似体験をした
11	連尺小学校	B-①-エ	学区クリーン作戦	地区掃除、公園掃除、伊賀川などの掃除をした
		A-②-オ	リサイクル活動	資源回収活動
12	井田小学校	A-①-イ	学区老人クラブ連合会草取り奉仕活動	老人クラブと協力し校地内の草取り
13	愛宕小学校	B-①-エ	学区文化祭	児童と地域の人の作品を出品し、鑑賞交流をした
		A-①-ア	敬老会	児童がお手紙を書き、交流した
		A-②-オ	愛宕人権週間	障がい者と高齢者について学び、人権集会も行った
14	福岡小学校	A-①-イ	ふくふくタイム	1、2年生が地域のお年寄りや昔遊びを通して交流した
		B-①-エ	敬老詩集贈呈	全校児童が敬老の詩を書き、詩集としてまとめ、全敬老者に贈呈した
		B-①-オ	福寿会との交流	園芸部が福寿会の方から野菜の栽培方法について学んだ
15	竜谷小学校	A-①-イ	高齢者との交流活動	高齢者を講師として招き、交流した
		B-①-エ	竜谷っ子ピカピカ大作戦	地域のひとと、学区でよく利用している施設の周辺を清掃した
		A-①-イ	学校ボランティア感謝の会	交通指導員、安全パトロール隊、読み聞かせボランティア、給食補助員などに感謝の手紙を書いて届けた
16	藤川小学校	A-①-エ	福祉実践教室	4年生が視覚障がいをもつ人の特性の話を聞いたり、高齢者疑似の体験をした
		A-①-キ	米作り感謝の会	地域の方々への支援と指導を受け、米作りを体験し、お世話になった方へ感謝の気持ちを伝えた
		B-①-ア	藤花荘、第二藤花荘との交流	3・4年生が思いを書いた手紙を送って交流した
17	山中小学校	A-①-キ	ふれあい交流	特別支援学級の児童を誕生日会に招いて交流した
		A-①-イ	昔遊びの会	高齢者の方を招いて、昔遊びを教えていただき交流をした
		A-①-オ	感謝の会	交通指導員や見守り隊などの代表の方へ感謝の気持ちを表し、育てた花をプレゼントした

小学校

18	本宿小学校	A-①-イ	学区敬老会	学区の敬老者に対してお祝いの手紙を届けた
		A-①-イ	SSV感謝の会	登下校サポートや読み聞かせボランティアの方へ感謝を伝える会を開いた
19	生平小学校	B-①-ウ	一人暮らしのお年寄り宅へプレゼント	コロナ禍だったため、代表宅にのみ訪問し、色紙をプレゼントし交流を深めた
		A-①-イ	お年寄りから昔の遊びを学ぶ	老人クラブの方に昔の遊びを教えてもらいながら一緒に活動した
		A-①-イ	ふるさと学習・ふれあい餅つき大会	コロナ禍だったが、規模縮小し、裏山整備や、マジックショーを楽しんだ。餅つきは中止。
20	常磐南小学校	B-①-エ	学区敬老会	会は中止になったが、祝いのメッセージを記したしおりを作成し、プレゼントした
		A-①-キ	ときなん祭	保護者を招き、ときなん祭を実施
		A-①-エ	福祉実践教室	車いす体験
21	常磐東小学校	A-①-ア、キ	敬老会	学区の高齢者に感謝の気持ちを込めた手紙を届けた
		A-①-キ	青木川などの掃除	学校前の青木川を地域、児童、職員が協力しながら清掃した
		A-①-イ	感謝する会	感謝の気持ちを込めて地域の方々に感謝状や手紙や演奏を送った
22	常磐小学校	A-②-エ	福祉実践教室	車いす、高齢者体験
		A-③-イ	赤い羽根共同募金	代表委員会が中心となり、全校に呼び掛けた
		B-①-エ	学区クリーン作戦	通学路や公園などの場所を掃除
23	恵田小学校	A-①-キ	交流活動	各学年年1回、岡麓の児童と交流活動を行った
		A-①-キ	落ち葉スキー交流・開場式	開場式に岡麓の4・6年生を招待し、その後各学年が交流し理解を深めた
		A-①-キ	収穫感謝祭	米作りの発表やキウイ・野菜販売を行った
24	奥殿小学校	B-①-オ	JRCふるさとクリーン作戦 I	学区内施設清掃活動
		A-①-キ	もち花づくりの会	もち花を学区内施設へ贈呈
		A-①-イ	感謝の会	お世話になった地域の方々への記念品の贈呈
25	細川小学校	A-①-イ	昔遊びを通じた交流会	学区敬老クラブと昔遊びを学びながら交流した
		A-①-イ	伝統芸能伝承活動	地域に伝わる御殿万歳、チャラポコ太鼓を学んだ
		A-①-イ	福祉実践教室	手話・視覚障がい者の疑似体験
26	岩津小学校	B-①-イ	県立岡崎聾学校との交流	持久走大会やレクリエーションや学校案内など交流を行った
		A-①-ア	学区のお年寄りへの手紙	敬老の手紙を書き、送付した
		B-①-イ	みあい特別支援学校との交流	居住地交流や製作活動を通して交流した
27	大樹寺小学校	A-①-ア	学区敬老会	会は中止になったが、お祝いの手紙と収穫した種を送付した
		B-①-イ	ろう学校との交流	岡崎聾学校の児童と交流
		A-①-カ	ボランティア感謝の会	学区でボランティアを行っている方を招き、感謝を伝えた
28	大門小学校	B-①-エ	学区公園清掃活動	学区の公園を地域の方々と一緒に清掃した
		B-①-エ	しめ縄広報活動	4年生が学区の方々と一緒に、しめ縄組合から寄贈されたしめ縄にメッセージを添えて道路を通行するドライバーへ配った
		A-③-オ	プルタブ収集活動	収集活動をし、岡崎中央ライオンズクラブの活動に生かすために送った
29	矢作東小学校	A-①-イ	ふれあいの会	地域のお年寄りの方に昔遊びを教えてもらう
30	矢作北小学校	A-①-キ	福祉実践教室	高齢者や障がい者体験をし、自分に何ができるか考えた
		A-③-イ	視覚障がい者スポーツ体験	ゴールボール体験をし、視覚障がい者への理解を深めた
31	矢作西小学校	A-①-ア	敬老活動	全校児童よりお祝いの手紙を送った
		A-③-イ	赤い羽根募金	学級委員が全校児童に呼びかけ、募金活動を行った
		A-①-エ	福祉実践教室	5年生が車いす、高齢者体験を行い、自分にもできる手助けを考えた
32	六ツ美北部小学校	B-①-オ	占部川の掃除活動	占部川の清掃活動を行った
		A-①-ア	福祉実践教室	視覚障がい者補助体験を行った
33	六ツ美南部小学校	A-③-オ	ペットボトルキャップ回収運動	JRC委員を中心に、ワクチン購入を目標としたキャップ回収運動を実施した
		A-①-エ	福祉実践教室	外部講師を招いた福祉実践教室の実践をした
		A-①-キ	交通安全防犯感謝の会	お世話になっている交通指導員やボランティアに感謝を伝える会を実施した
34	城南小学校	A-①-イ	城南学区敬老会	会は中止になったが、手紙を書いて長寿をお祝いした
		A-①-エ	福祉実践教室	障がいのある人たちの生活の中での大変さを体験した
		A-①-キ	学校ボランティアさんへの感謝の会	登校見守りボランティアや子ども110番の店舗などに感謝の気持ちを伝える手紙を渡した

35	上地小学校	A-③-オ A-①-エ A-②-ウ	校外学習 福祉実践教室 バリアフリーに関するまとめ作成	バリアフリーを探すために、岡崎駅と岡崎公園に出向き、調べ学習をした 車いす体験・視覚障がい者ガイドの体験を行った 学区内にあるバリアフリーについて、模造紙にまとめた
36	小豆坂小学校	B-①-エ A-①-イ A-①-イ	「歩こう会」との交流 敬老会 感謝の会	地域のゴミ拾いをしながら交流を深めた 全校児童や音楽部による発表や交流をした スクールカード、読み聞かせなど、日頃お世話になっている方へ感謝の手紙を渡した
37	北野小学校	A-①-キ A-①-キ	福祉体験活動 感謝の会	パラスポーツ体験(ポッチャ・ゴールボール) 学校ボランティア団体との交流・手紙
38	六ツ美西部小学校	A-①-エ A-③-ウ A-①-ア	SDGsみんなに優しい世界へ ペットボトルキャップ回収 敬老会お手紙	SDGsへの関心を深めるために障がいや差別などを調べ、模造紙などにまとめて発表した ペットボトルキャップを回収し、その収益をワクチンを寄付 学区の高齢者の方にお手紙とプレゼントを制作し渡した
39	豊富小学校	A-①-キ・エ A-①-カ A-③-イ	米作り体験・販売活動 野菜の種まき体験 赤い羽根募金活動	福祉委員の方に指導を受けながら、学校の近くの田で米作りを行った 牧鹿会と野菜の種まきを通して交流した 生活委員が中心となり、全校で募金活動を行った
40	夏山小学校	A-①-カ A-①-キ A-①-カ	農業体験 鮎つかみ取り・塩焼の会 餅つきの会	地域の方と一緒に色々な作物を栽培し、収穫したものを調理して食べ交流を深めた 地区の福祉委員会の主催で、鮎つかみ取りをし、地域の方と交流しながら会食した 育てたもち米を使い、地域の方と一緒に餅つきをして、雑煮を作り、地域の方に振舞った
41	宮崎小学校	A-①-イ A-①-イ	お茶摘み会 みやざき音楽会	今年度も高齢者グループは参加できなかったが、児童と保護者で茶摘み体験をした 学区に住む高齢者の方々と一緒に音楽を楽しんだ
42	形埜小学校	A-①-イ A-①-キ A-①-イ	ササユリ、ウサギ、カトムシを育てる 地域の方へ花の鉢植えをの贈呈 高齢者との交流	地域の方を講師に迎え、育てた 登下校を見守ってくれる地域の方へ、花の鉢植えを贈り、感謝の気持ちを伝えた 地域の高齢者の方から、風揚げ、カルタとりを行った
43	六ツ美中部小学校	A-①-ア A-③-ウ B-①-エ	敬老会交流絵手紙 プルタブ回収 コスモスウォーキング	全校児童が、学区の高齢者に絵手紙を書いた プルタブを回収し、ライオンズクラブを通して車いすを贈る活動 学区の人と交流しながら、ウォーキングした
44	広幡小学校	A-①-キ A-①-ア A-①-イ	福祉教育プログラム 愛のレター作戦 ボランティアの方に感謝する会	車いす、高齢者、手話のプログラム 地域の高齢者へお便り活動に取り組んだ 児童の見守りボランティアさんに感謝する会を開いた
45	下山小学校	B-①-イ A-①-エ B-①-イ	ササユリ交流(リモート) 福祉実践教室 盲学校との交流会	事前にササユリのプレゼントをし、クイズやゲームで交流した 点字体験、アイマスクをして音響走 盲学校でのペア交流を行った
46	秦梨小学校	A-②-キ	地域の高齢者と交流活動	地域の高齢者に、昔遊びを教えてもらい交流した。その後ポスターにまとめた
47	甲山中学校	A-③-ウ A-③-オ A-③-ア	赤い羽根募金 アルミ缶、ペットボトルキャップ、ベルマーク回収活動 ベルマーク	赤い羽根募金を行った 回収活動をし、収益金を寄付したり、車いすの交換やワクチン購入にあてた 収集し、集計を行った
48	美川中学校	B-①-ア	福祉施設等への訪問・交流事業	育てた野菜を学区内の社会福祉施設に届けた
49	南中学校	A-①-ア A-②-ウ	地域の高齢者宅訪問 地域防災マップの作成と配付	高齢者宅へ訪問し、防災対策について相談したり、手紙を届けつながりを図った マップを作成し、配布
50	葵中学校	B-①-エ A-③-オ	伊賀川プロジェクト ひまわりプロジェクト	伊賀川を清掃し、花の球根を植え、地域環境福祉に貢献した 資源回収や、募金活動を行い、被災地支援、福祉活動に貢献した
51	城北中学校	A-③-エ A-③-ウ A-①-キ	ユニセフ募金 資源回収 地域清掃活動	ユニセフ協会講演会と募金 各家庭で集めたものを回収した 奉仕作業を行った

中学校	52	福岡中学校	A-③-オ	生徒会主催資源回収	ブルタブを団体へ寄付、エコキャップでワクチンを送る活動に参加
			A-②-ア	教育講演会	講師を招いて、命について講話を、テレビ放送で行った
			A-③-イ	赤い羽根募金活動	赤い羽根募金活動に参加した
	53	東海中学校	B-①-イ	特別支援学校との交流(ZOOM)	オンラインで交流
			A-③-イ	ペットボトルキャップ回収	ペットボトルキャップ回収運動した
			A-③-イ	アルミ缶回収	リサイクル運動
	54	河合中学校	A-①-ウ	かわいの里ケアハウス交流	メッセージカード作りし、送った
			B-①-ア	ふれあい訪問(かわいの里)	訪問し、作成したアロマストーンやカードを届けた
			A-①-エ	福祉教育プログラム	手話・発達障がいプログラム
	55	常盤中学校	A-①-ア	ふれあい教室	絵手紙制作を行い、作品を長寿者地域交流でプレゼントした
			B-①-エ	滝山寺清掃ボランティア活動	滝山寺を清掃し、学区への愛着を深め、勤労意欲を高めた
			B-①-エ	長寿者地域交流	学区内のお年寄りに、絵手紙を贈って長寿のお祝いをした
	56	岩津中学校	A・B-①-イ	岡崎聾学校との交流	岡崎聾学校と、交流レクを実施した。
			A-①-オ	福祉体験活動	車いすの試乗体験、ポッチャ体験
			A-②-オ	岡崎聾学校との作品交流	文化祭での美術作品の展示
	57	六ツ美中学校	A-③-オ	ブルトップを集めて車いすを贈ろう	ブルトップを回収して、車いすを寄贈する活動に参加した
A-③-オ			トルコ・シリア地震募金活動	ユニセフと赤十字を通じて、被災地に送る活動をした	
A-③-オ			エコキャップ収集活動	途上国にワクチンを贈る活動に参加した	
58	矢作北中学校	A-③-ウ	福祉委員会活動	ペットボトルキャップ回収し、貢献活動をした	
		B-①-エ	学区美化活動	美化活動	
		A-②-ア	人権集会	人権集会をし、モニュメントの作成や講演会を行った	
59	新香山中学校	B-②-ウ	ササユリ保護活動	ササユリの栽培と学区の保護区の保護活動を実施した	
		A-③-イ	緑の募金	緑化推進を全校に呼びかけて募金活動を展開した	
		B-①-ア	ササユリ訪問	市役所等へ行き、ササユリを贈った	
60	竜南中学校	A-③-エ	服の手カラプロジェクト	地域の方や学区に声をかけて、服を集め、ユニクロを通して難民キャンプへ送った。	
		A-③-イ	赤い羽根募金活動	募金活動を行った	
		B-①-イ	みあい特別支援学校との交流	ビデオレターと自己紹介カードを作成し、交換し合い交流を行った	
61	北中学校	A-③-ア～オ	ベルマーク、アルミ缶などの収集と募金活動	各種収集活動や募金活動を行った	
		A-①-キ	クリーン輝北中	学区内の掃除活動	
		A-②-ウ	福祉ポスター・教護・体験作文応募	大門学区明るい町づくり作品、岡崎市明るい社会づくり作品、人権を理解する作品	
62	翔南中学校	A-①-キ	読み聞かせの会	ボランティアさんによる読み聞かせ活動	
		A-①-キ	絆を深める会	人権や福祉についての意識を高めることを目的とする会	
		B-③-エ	保育園交流	白鳩保育園との交流会を行った	
高校	63	岡崎東高等学校	A-③-オ	ブルタブ・ペットボトルキャップ回収	回収し、業者への引き渡し
			B-①-イ	岡崎特別支援学校 クリスマスカード交換	お互いの生徒に宛てたクリスマスカードを作成し、交換して交流を図った
			A-③-イ	赤い羽根募金運動	募金を行った
	64	岡崎商業高等学校	B-①-イ	学校間交流会。高校生による出前授業	岡崎聾学校へプログラミング出前授業
	65	岡崎工科高等学校	B-①-エ	交通安全ボランティア活動	周辺の小学校への登校時の交通安全活動
	66	人間環境大学附属岡崎高等学校	A-②-オ	献血PRとホームワーク板谷の委託販売	献血のPRと福祉施設の方の作品の委託販売を行った
			A-③-イ	赤い羽根共同募金	校内で募金活動を行った
	67	岡崎城西高等学校	B-①-ア	きらキッズ・きららぶち	おもちゃ図書館きらら主催による発達障がい児支援活動
			B-①-オ	献血PR活動	東岡崎駅での献血の呼びかけ及び献血
			A-③-エ	ウクライナ避難民支援活動	ウクライナ避難民を支援するための募金活動及びハンドタオル販売
68	光ヶ丘女子高等学校	A-①-エ	福祉実践教室	点字、手話、車いす、高齢者疑似体験などの実践教室	
		B-①-イ	岡崎盲学校と交流	スポーツとダンスで交流、点字カレンダー贈呈	
		A-③-オ	クリスマス街頭募金	街頭募金を行い、国内外の施設に贈呈	
69	愛産大三河高等学校	B-②-ウ	献血ボランティア	献血のよびかけ	
		A-③-オ	ペットボトルキャップ回収	回収活動	
		A-③-イ	赤い羽根募金	募金活動	

小 中 高 等 学 部	70	岡崎盲学校	A-①-キ	小学校交流	下山小の児童が来校し、ゲームで交流をした
			A-①-キ	中学部交流	七夕交流をオンラインで行った。
			A-①-キ	高等部交流	光ヶ丘女子高と、ダンスやゲームで交流をした
	71	岡崎聾学校	B-②-ウ	学校間交流	恵田小との落ち葉スキー交流
			A-①-キ	マラソン大会交流	岩津中学校のマラソン大会の参加
			B-①-オ	地域交流センターにおける手話交流	地域の方と手話で触れ合う手話交流
	72	岡崎特別支援学校	A-①-カ	本宿小との交流	間接交流自己紹介カード・DVD/動画交換
			A-①-カ	三谷水産高校との交流	オンラインで間接交流
			A-①-カ	東海中との作品交流	本校作品展、東海中作品展にて展示
	73	みあい特別支援学校	A-③-オ	エコキャップ収集活動	エコキャップ収集を行い、回収会社を通してアフリカの子どもたちへポリオワクチンを贈る
			A-①-カ	中学部学校間交流	竜南中と手紙交流・ビデオ交流した
			A-①-カ	絵手紙交流	絵手紙を送って交流した
	74	愛知教育大学付属特別支援学校	A-①-カ	サツマイモ交流	収穫祭後には、手紙を書き、附属小に届けた
			B-①-イ	高等部交歓会	学校紹介の動画作成し、三重大付特に送った。本校の作品製品を送った
			B-①-エ	ふよう美術展のポスター配付	近隣の小中学校や店舗、公共施設に訪問。主催の美術会のポスター配付

児童・生徒の福祉実践教室実施要綱

1. 目 的

福祉実践教室は、児童・生徒が障がい者・高齢者から講話を聞き、実際に疑似体験することによりさまざまな人が暮らしている地域社会で相手の立場を理解し、思いやりの心を育み、『人にやさしいまちづくり』として日常的な福祉活動を実践するための契機として開催する。

2. 実施主体

岡崎市社会福祉協議会 ボランティアセンター

3. 実施対象

岡崎市社会福祉協議会の指定を受けている福祉教育推進校及び福祉実践教室の目的に賛同し、実施を希望する小・中・高等学校等（以下「実施校」という。）の児童・生徒。

4. 実施期間

4月1日～3月31日

5. 実施内容

車いすガイド、手話、点字、要約筆記、視覚障がい者ガイド、高齢者疑似体験、盲導犬、発達障がい、いじめ防止

6. 申 請

原則として、実施日の2ヶ月前までとする。

7. 経 費

この事業に要する経費は、岡崎市社会福祉協議会の負担とする。

8. 手続き及び詳細については、裏面『福祉実践教室のすすめかた』参照のこと。

【お問い合わせ先】

岡崎市社会福祉協議会ボランティアセンター

TEL 0564-47-7955 FAX 0564-47-7956

E-mail vc@okazaki-shakyo.jp

ホームページ URL <https://okazaki-shakyo.jp/volunteer>

福祉実践教室のすすめ方

福祉実践教室の目的にもあるとおり、各メニューには必ず「対象者」がいます。その対象者がどのような状態にあって、どのようなサポートが必要なのか？を起点として紹介させていただいているメニューであることをご理解いただいたうえ、所定の手続きをお願いいたします。

①福祉実践教室の開催候補日、実施希望科目をある程度考えていただいたうえ、社会福祉協議会ボランティアセンターまで電話でお申込みください。申込期限は実施日の2ヶ月前です。

②担当教諭と社協担当者と、日程等の打ち合わせをします。(電話かメール)

③実施計画書の作成及び提出

実践教室様式①・1～③を「岡崎市社会福祉協議会ホームページ」→【ボランティア】→【ボランティアセンター】→【各種ダウンロード】→福祉実践教室【提出様式一式】からダウンロードし、作成してください。提出については、社会福祉協議会ボランティアセンターにメールにて提出してください。

④講師の決定

各科目の講師を社会福祉協議会ボランティアセンターで調整し、決定いたします。講師の決定後、当日の講師の氏名、講師の所属団体長（担当者）の氏名と連絡先を学校にお知らせします。講師の所属団体長（担当者）と授業の詳細について打ち合わせを行ってください。

⑤用具の貸出しについて

実践教室で必要となる車いすや点字板等は社会福祉協議会から貸出し可能です。原則として実施日の前日に社会福祉センターまで取りに来ていただき、当日返却をお願いします。

⑥講師の送迎について

講師の送迎を学校にお願いする場合があります。

⑦講師料について

講師料は、社会福祉協議会が負担します。

⑧実施報告書の提出について

実践教室実施後2週間以内に、実践教室様式④をボランティアセンターホームページよりダウンロードし、社会福祉協議会ボランティアセンターに提出してください。

令和4年度 福祉実践教室実施状況

R4年度実績

小学校・・・15校
 中学校・・・0校
 高校・・・3校
 合計・・・18校
 (延べ開催日数33日)
 延べ 5,197人

R3年度実績

小学校・・・7校
 中学校・・・1校
 高校・・・2校
 合計・・・10校
 (延べ開催日数14日)
 延べ 3,358人
 中止・・・4校

R2年度実績

小学校・・・13校
 中学校・・・1校
 高校・・・0校
 合計・・・14校
 (延べ開催日数18日)
 延べ 2,727人
 中止・・・1校

【科目別】(延べ)

科目	日数	時間数	人数
車いす	20	33	1042
手話	13	21	801
要約筆記	3	6	262
点字	7	13	518
盲導犬	1	2	70
視覚障がい者ガイド	8	15	619
発達障がい	2	2	140
高齢者疑似体験	20	34	1040
いじめ防止	3	5	390
全体講話	4	4	315

(前年度実績)

日数	時間数	人数
8	15	538
7	15	446
5	10	271
7	15	456
2	2	189
9	19	596
1	1	30
9	18	633
0	0	0
2	2	199

【学校からの感想】(一部抜粋)

●小学校

- ・アイマスクをして歩くうえで、危険な階段で声をかけてくれて安心して学ぶことができた。目が見えない人の話は貴重だった。
- ・車椅子に乗って生活をされる方のお話を聴くことができ、貴重な時間だった。周りの助けがないと車椅子を使いこなすのが難しいと感じた。
- ・様々な道具を使うことで、高齢者の気持ちを理解できた。身近なおじいちゃんを支えてあげたり、困っている人がいたらお手伝いしたいと思った。
- ・声に出して伝えられない大変さを知って、大変に感じている人のために手話を覚えていきたいと思った。
- ・点字を覚えることの難しさを感じ、目の見えない人の苦労が少し分かった。
- ・「いじめ」は身の回りにあるかもしれないことであり、それを増やさないために頑張らないといけないと思った。

●高校

- ・要約筆記を学び、大切な単語やフレーズを選んで書くことで会話のスピードが上がることに気づき、耳が聞こえない人に、自分が伝えたいことを多く伝えていきたい。
- ・ジェスチャーゲームなどの体験から、言葉なしで相手の人に自分の意志を伝えることはすごく大変だということを感じた。また手話に加えて筆談や空文字など、いろいろな方法でコミュニケーションをしていくことを学んだ
- ・発たつ障害の講師の先生方の頑張っている姿ばかりでなく、弱音の部分も聞くことができ、心に響いた。

福祉実践教室教員向け研修会 日程表

日	時間	内容
8月4日(金) 社会福祉センター	10:00	あいさつ・オリエンテーション
	10:10	『発達障がい』 講師：自閉症啓発キャラバン Swing
	10:55	休憩
	11:05	『いじめ防止』 講師：ゲートキーパー リボン岡崎
	11:50~12:00	アンケート記入・終了

8月4日(金) 社会福祉センター	13:00	あいさつ・オリエンテーション
	13:10	『点字』 講師：点訳木曜会
	13:55	休憩
	14:05	『視覚障がい者ガイド』 講師：岡崎ひとみ会
	14:50	休憩
	15:00	『盲導犬』 講師：盲導犬利用者
	15:45~15:55	アンケート記入・終了

日	時間	内容
8月8日(火) 社会福祉センター	10:00	あいさつ・オリエンテーション
	10:10	『要約筆記』 講師：岡崎市難聴・中途失聴者の会 OHP おかざき
	10:55	休憩
	11:05	『手話』 講師：岡崎市聴覚障害者福祉協会 岡崎市登録手話通訳者
	11:50~12:00	アンケート記入・終了

8月8日(火) 社会福祉センター	13:00	あいさつ・オリエンテーション
	13:10	『高齢者疑似体験』 講師：高齢者体験サポータークラブ
	13:55	休憩
	14:05	『車いす体験』 講師：ぼくらの障がい知ってもらい隊 アンダンテ
	14:50~15:00	アンケート記入・終了

「福祉」の授業に取り組まれる 先生のためのハンドブック ～福祉教育プログラム集～

※ 学校保管

このハンドブックは平成 29 年の総合学習主任者会で全校に配布しています。
半透明のファイル（学校保管）をご確認ください。
なお、「もくじ」の差し替えと「実用例」の挟み込みをお願いします。



岡崎市社会福祉協議会
マスコットキャラクター
はぴりん

社会福祉法人 岡崎市社会福祉協議会
ボランティアセンター

はじめに

社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会（以下、「社協」という。）では小学校、中学校、高等学校を対象に福祉実践教室を実施しています。福祉実践教室は、障がい者・高齢者などの当事者やその支援者と児童・生徒がふれあいながら、実際に障がい者や高齢者の疑似体験をします。様々な人が暮らす地域社会で相手の立場を理解し、思いやりの心を育む「人にやさしいまちづくり」として日常的な福祉活動を実践するための契機となるよう開催しており、多くの小学校、中学校、高等学校で実施されています。

今回、岡崎市教育委員会および福祉実践教室講師団体の皆様に御意見をいただきながら作成したこの「福祉」の授業に取り組まれる先生のためのハンドブックは、誰もが普通に共生できる社会を目指すノーマライゼーション(※1)の考え方や、当事者の生活機能に着目し、その方の強みや取り巻く環境にも目を向ける ICF（国際生活機能分類）(※2)の視点を意識し、疑似体験や当事者の話を中心に、事前の学習と事後の学習を含めた児童・生徒の気付きを発展させる福祉教育プログラムを提案しています。

児童・生徒が気付きを通して共に生きる力を育み、地域の一員として福祉への自発的・主体的な関わりが持てるようこの福祉教育プログラムを御活用いただければと思います。

よろしく

社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会

お願いします！

もくじ

第1章 福祉教育プログラムのねらいと特徴

- 1 福祉教育プログラムと福祉実践教室の特徴とちがい・・・・・・・・・・ 2
- 2 学習指導要領と福祉教育プログラムによる学習のねらい・・・・・・・・ 3

第2章 福祉教育プログラム実施にあたって

- 1 福祉教育プログラムの活用方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 2 福祉教育プログラム実施の流れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 3 福祉教育プログラム相談チェックシート・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

第3章 福祉教育プログラムの基本プラン

- プラン1：「ふくし」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ プ1-1
プラン2：「高齢者」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ プ2-1
プラン3：「車いす」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ プ3-1
プラン4：「視覚障がい」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ プ4-1
プラン5：「聴覚障がい」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ プ5-1
プラン6：「発達障がい」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ プ6-1
プラン7：「赤い羽根共同募金」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ プ7-1
プラン8：「防災を通して地域の支え合いを学ぶ」・・・・・・・・・・・・ プ8-1
プラン9：「避難所をモデルにユニバーサルデザインを考える」・・・・ プ9-1
全プログラム共通：福祉教育プログラムふりかえりシート

様式集

用語集

※1 ※2 用語集

第1章

福祉教育プログラムの ねらいと特徴

- 1 福祉教育プログラムと福祉実践教室の特徴とちがい
- 2 学習指導要領と福祉教育プログラムによる学習のねらい

福祉教育プログラムと福祉実践教室の特徴とちがい

【福祉教育プログラムの特徴】

福祉教育プログラムは「ふくし」、「高齢者」、「車いす」、「視覚障がい」、「聴覚障がい」、「発達障がい」、「赤い羽根共同募金」、「防災を通して地域の支え合いを学ぶ」、「避難所をモデルにユニバーサルデザインを考える」の9つの基本プランがあり、事前学習、体験学習、事後学習を一連としたプログラムとして考え、児童・生徒が障がい当事者や地域活動者と一緒に福祉についての学びを深めます。

福祉教育プログラムには事前学習と事後学習も含まれているよ！



【福祉実践教室の特徴】

福祉実践教室は「車いす」、「点字」、「視覚障がい者ガイド」、「盲導犬」、「手話」、「要約筆記」、「高齢者疑似体験」、「発達障がい」、「いじめ予防」の9つの体験内容があります。事前学習や事後学習は学校の先生が独自で行い、体験学習を社協から派遣する講師によって行っています。

疑似体験を通して、先生が行う事前学習や事後学習の学びを深めます。

【福祉教育プログラムと福祉実践教室のちがい】

	福祉教育プログラム	福祉実践教室
講師料	不要	不要
打合せ回数	状況に応じて	1回
実施日数	希望に応じて	1日～3日
授業の選択内容	9つの基本プラン	9つの体験
授業内容の自由度	高い	低い
授業計画の作成	社協	学校
体験用具の貸出	あり	あり
事前学習	あり	なし
体験学習	あり	あり
事後学習	あり	なし

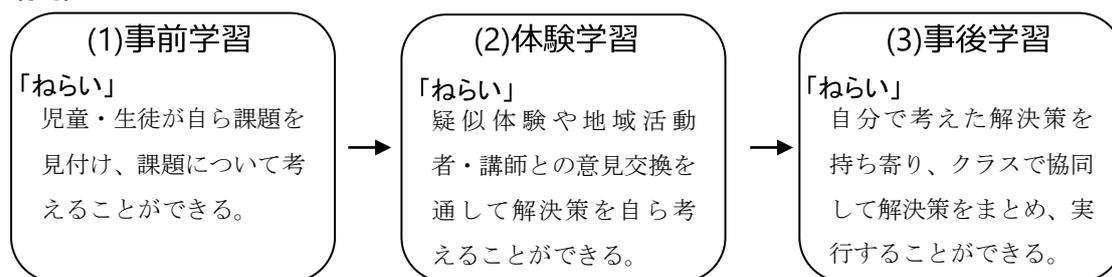
学習指導要領と福祉教育プログラムによる学習のねらい

【学習指導要領と福祉教育プログラムの関係性】

1. 学習指導要領(総合的な学習の時間)の目標は、五つの要素から構成されています。
 - (1)横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すこと。
 - (2)自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成すること。
 - (3)学び方やものの考え方を身に着けること。
 - (4)問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てること。
 - (5)自己の生き方を考えることができるようにすること。
2. 福祉教育プログラムは3つの段階に分けて学習します。
 - (1)事前学習では、地域で私たちと暮らす障がい者や高齢者の生活に焦点をあて、個人ワークを行ったり当事者の話を聞いたりします。
 - (2)体験学習では、疑似体験や児童・生徒同士、地域活動者、講師と意見交換を行います。
 - (3)事後学習では、今までの学びや考えた解決策をグループワークや発表で共有し、今後の活動に繋がります。

下図の通り、本誌は学習指導要領の目標（五つの要素）に沿って作成しています。

〈図〉



「目標」

地域で暮らす障がい者や高齢者を理解し、
地域の一員として自分や地域で何ができるかを考え、共に生きる力を育む

【使いやすい福祉教育プログラム】

プログラムの実施にあたり、総合学習の時間で「福祉」を選択される先生が持つねらいや希望の学習内容を社協担当職員が聞き取りながら、一緒に独自のプログラムを作成していきます。プログラム作成の事務的作業は社協担当職員で行うため、学校業務で多忙な先生の負担を極力減らすことができます。

また、講師の講話や疑似体験を通して児童・生徒が命の大切さや生きる力を学ぶことができるため、総合的な学習の時間のみでなく、道徳や特別活動等の他教科における指導計画と関連付けてこの福祉教育プログラムを活用してください。

福祉の授業に取り組まれる先生は、まず社協にご相談を！



【福祉教育プログラムのこれから】

今回作成した福祉教育プログラムは実施校からのアンケートや講師からの意見をもとに随時、修正や追加をしていきます。今後は地域の福祉施設に訪問したり、地域活動者と一緒に地域で活動してみたりといった新たなプログラムの開発や今あるプログラムの発展に取り組んでいきます。

第2章

福祉教育プログラムの 実施にあたって

- 1 福祉教育プログラムの活用方法
- 2 福祉教育プログラム実施の流れ
- 3 福祉教育プログラム相談チェックシート

福祉教育プログラムの活用方法

福祉教育プログラムの基本プラン1～9は福祉実践教室の実施が多い小学校5年生を対象に作成していますが、小学生から高校生までの**希望する学年に合わせたプログラムを先生の要望を聞き取りながら一緒に考えていくため、小学校・中学校・高等学校と幅広く実施することができます。**

また、福祉教育プログラムの基本プランには時間や回数が記載されていますが、**学校の希望する時間や回数にできる限り合わせながらプログラムを作成することも可能です。**

福祉教育プログラム実施の講師派遣に係る費用(講師料や交通費)は、社協で負担しますので授業で使用する備品等の準備のみで実施することができます。

福祉教育プログラム実施の流れ

先生と一緒に福祉の授業を考えます！



相談チェックシート(P7)を作成し、実施予定日の3か月前までにボランティアセンターにFAXを送信

実施時間、回数、内容の希望を、先生と社協職員で相談しながら独自のプログラムを作成(プログラムの作成は社協職員が行う)

事前

打合せ内容に基づき申請書等(様式①～様式③)をボランティアセンターに提出

先生と講師団体で打合せ

実施の前日に体験用具をボランティアセンターに取りに行く

当日

学校の最寄り駅やバス停までの送迎を行う(送迎が必要な講師のみ)

体験用具をボランティアセンターに返却

事後

報告書(様式④)を作成し、ボランティアセンターに提出

福祉教育プログラム相談チェックシート

福祉教育プログラムを活用していただく前にこのシートを作成し、社協に送信してください。このチェックシートをもとに打ち合わせを行います。

まずはお気軽にご相談ください。

学校の情報	_____小学校・中学校・高校 学校の電話番号_____ F A X _____ 担当の先生の氏名 _____ 先生のメールアドレス _____
目的・ねらい 子どもたちに伝えたいこと 学ばせたいこと	
希望する内容	<input type="checkbox"/> ふくし <input type="checkbox"/> 高齢者 <input type="checkbox"/> 車いす <input type="checkbox"/> 視覚障がい <input type="checkbox"/> 聴覚障がい <input type="checkbox"/> 発達障がい <input type="checkbox"/> 赤い羽根共同募金 <input type="checkbox"/> 防災を通して地域の支え合いを学ぶ <input type="checkbox"/> 避難所をモデルにユニバーサルデザインを考える <input type="checkbox"/> その他
実施予定日 現在の予定	【時期】 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 1学期 <input type="checkbox"/> 2学期 <input type="checkbox"/> 3学期 【回数】 <input type="checkbox"/> 2回講座 <input type="checkbox"/> 3回講座 <input type="checkbox"/> それ以上 ____回講座
対象と人数	<input type="checkbox"/> 全校で行う 約____名 <input type="checkbox"/> 学年で行う ____年生 約____名 ____クラス <input type="checkbox"/> 学級で行う ____年__組 約____名 <input type="checkbox"/> その他 _____
その他	福祉教育で悩まれていることなど、どんな事でもご自由にお書きください。

【相談チェックシートご提出先】

岡崎市社会福祉協議会ボランティアセンター

〒444-0022 岡崎市朝日町3-2 福祉会館2階

TEL/FAX : 0564 - 21 - 5377 E-mail : okashavc@m2.catvmics.ne.jp

ご連絡をお待ち
しています！



第3章

福祉教育プログラムの 基本プラン

プラン1：「ふくし」

プラン2：「高齢者」

プラン3：「車いす」

プラン4：「視覚障がい」

プラン5：「聴覚障がい」

プラン6：「発達障がい」

プラン7：「赤い羽根共同募金」

プラン8：「防災を通して地域の支え合いを学ぶ」

プラン9：「避難所をモデルにユニバーサルデザインを考える」

全プラン共通：福祉教育プログラムふりかえりシート

高齢者

【モデル対象】 小学校5年生

【時間】 90分×3回

ねらい

高齢者が当たり前で生活できる地域社会の実現のため、地域の一員としての使命と役割があることを認識し、自覚が持てるようになる

学習計画

	授業テーマ	想定講師	学習内容
①	高齢者の生活を知ろう	・社協職員 ・地域住民	・高齢になるとどうなるか ・地域での高齢者福祉を知る ・高齢者の生活を知る ・高齢者の福祉用具の紹介 ・困りごとを考える
①	高齢者疑似体験をしてみよう 	・講師団体	・2人1組になって疑似体験をする ・困りごとの検証 ・どうすれば困りごとを解決できるかグループ討議 ・自分たちにできることを考える
②	僕たち、私たちにできることを考えよう	・社協職員 ・地域住民 ・学校の先生	・まとめ ・グループ討議…グループごとに自分たちの感想、できること、意見等を述べる ・また、今後どうしていったら良いかを話し合う ・話し合いをまとめ、発表する ・評価

目標

- ・ 講話を通して、日常生活などの話を聞き、困りごとを考えることができる（関心・意欲・態度）
- ・ 自分やグループ、クラスで高齢者の困りごとや解決策を考えることができる（思考・判断・表現）
- ・ 体験を通して「加齢」を理解したうえで、自分たちにできることを考え、行動することができる（技術）
- ・ 高齢者の理解と自分たちの出来ることをまとめ、発表することができる（知識・理解）

ねらい・ポイント	準備物品	先生へのお願い
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者のイメージをつかめる ・ 高齢者の生活を知る ・ 加齢のために困ることを考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉用具 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ分け
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の特徴や不便さを感じる ・ 困りごとを解決する方法を考える ・ みんなの前で意見を述べるができる ・ 思いや考えが違っていても、受け入れ、歩み寄ることの大切さを知る ・ 自分たちができることはあるのか考えられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験用具 ・ 模造紙 ・ 付箋 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要物品の用意 ・ 児童のペア組み ・ 体験コースの決定
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者のことを理解し、感じたこと、できることをまとめる ・ みんなの前で発言することができる ・ 思いや考えが違っていても、受け入れ、歩み寄ることの大切さを知る ・ 地域の一員としての使命と役割を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 模造紙 ・ マジック ・ 画用紙 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要物品の用意 

① 高齢者の生活を知ろう 90分

目標

「高齢者とは」を学び、高齢者が生活の中でできること、大変なことをイメージする

想定される講師と準備物

講師：社協職員、地域住民

備品：福祉用具

プログラム

学習活動	時間	指導上の留意事項
◎高齢になるとどうなる？ ・高齢になると体や心はどうなるかを考え、発言する	10	・家族や近所の高齢者をイメージさせ、体や心の変化を感じられるようにする ・心の面は思いつきづらいので様子を見てヒントを出す ・意見が出ないときはクイズにする
◎地域での高齢者福祉って？ ・地域での福祉活動について話を聞く	20	・学区福祉委員会の存在を伝える ・地域で実際に活動している人の話を聞き、持っていたイメージと実際の違いを感じさせる ・地域の高齢者の現状と、それに関わる活動の内容や大変さを伝える
休憩	5	
◎高齢者の生活を知ろう ・高齢者の生活の話を聞く ・高齢者が生活の中で感じる困りごとや思い通りにいかないことなどの話を聞く	10 10	・話のなかで知っていたこと、知らなかったことに気付かせる ・高齢者が感じる苦労や、思い通りにいかないことなどを聞き、高齢者が持つ困りごとに気付かせる ・地域に住む高齢者がどんなことに困っているのか感じさせる
◎できること、大変なことを考えよう ・自分たちと同じところや違うところを挙げる	20	・グループに分ける ・できることの気付きを大切にコメントする
◎高齢者が使用する福祉用具って？ ・高齢者が使用する福祉用具の説明を聞く ・使い方や効果の話を聞く	15	・あまり答えが出過ぎないように紹介は少しにし、使い方や効果、それぞれの福祉用具について気を付けることなどを伝える ・困りごとの解決にはいろいろな方法があり、福祉用具などの道具があることを伝える
◎高齢者の困りごとを考えよう ・高齢者が感じる困りごとや、児童自身が感じた高齢者が大変そうだと思うことを考える	宿題	・高齢者の持つ困りごとについてよく考えてもらうきっかけにする

②高齢者疑似体験をしてみよう 90分

目標

高齢者疑似体験を通して、高齢者の特徴や不便さを実体験する
前回考えた困りごとに対して解決策を考える

想定される講師と準備物

講師：講師団体
備品：高齢者疑似体験セット、模造紙、付箋

プログラム

学習活動	時間	指導上の留意事項
◎高齢者疑似体験をしてみよう ・部分的な体験の中から好きなものを選び体験する	4 5	・体験が遊びにならないように、体験の目的や意味をしっかりと伝える ・高齢者が感じる大変さや解決策のヒントを得るために考えてきた困りごとを実体験させる
休憩	5	
◎困りごとの解決策を考えよう ・グループに分かれ、一人ずつ自分が思った困りごとを発表し模造紙に書く ・グループで、誰が書いた困りごとでもいいので、思いつく解決策を付箋に書いて貼る	2 5	・いろいろな解決策を取り入れられるよう困りごとをグループで共有させる ・1つの困りごとに関してみんなで考えることで、グループ全員がより多くの困りごとや解決策を知り、考えることができるようにする
◎発表しよう ・みんなの前で、グループで挙げた困りごとと、付箋に書かれた解決策を発表する	1 0	・お互いに知識を深めるために、グループで話し合ったことを他のグループに伝えられるようにする ・グループでの考えの違いや解決策の違いの中で、方法は違っても受け入れ、歩み寄ることの大切さを感じさせる
◎宿題について ・場面設定や環境の説明を聞く	5	・すべての児童が、できることを考えやすいよう場面を設定する
◎自分が高齢者にできることを考えよう ・グループで挙げた困りごとの解決策を見て、実際に自分にできることは何か考える ・自分にできること、自分には難しいがお父さんやお母さん、地域の人ならできることを挙げてみる	宿題	・実際に自分にできることを考えることで家族や地域など、大人ができることを考えてもらうきっかけにする ・1日の復習の時間を作るために宿題を出す ・グループで出た解決方法をもとに自分なりにできることを児童主体で考えさせる

③僕たち、私たちにできることを考えよう 90分

目標

自分にできることを発表し、クラスメイトに紹介する
グループに分かれ、クラスとしてできることを考える

想定される講師と準備物

講師：社協職員、地域活動者、学校の先生
備品：模造紙、ペン、画用紙

プログラム

学習活動	時間	指導上の留意事項
◎自分ができることを発表しよう ・自分ができることをみんなに発表する ・いつ、何をやってみるのかを具体的に発表の中に入れる	30	<ul style="list-style-type: none"> 自分ができることを発表し、これから取り組むことをクラスメイトに知ってもらう すぐに取り組めることを挙げることで、積極的に取り組むきっかけにする 難しいことではなく、簡単にできることを挙げてもらうように配慮する
◎社協職員、または地域活動者、または先生の話 ・発表に対しての感想を聞く	10	<ul style="list-style-type: none"> たくさん褒めることでやる気と興味を持ち続けるきっかけにする これからの高齢者福祉の参考になるよう、専門的な話を入れながら伝える
休憩	5	
◎クラスでできることを考えよう ・グループに分かれ、クラスでできることを1つずつ考える	25	<ul style="list-style-type: none"> 自分だけでなく、クラスでできることを考えることで、協調性を身につけさせる 一緒に1つのことを考える大切さを感じさせる
◎クラスのできることをルールを作ろう ・グループで考えたクラスでできることを1つ発表し、画用紙に記入する ・すべてのグループのできることを記入し、できごとルールを教室に掲示する	20	<ul style="list-style-type: none"> クラスでできることを1つの紙に記し、高齢者と接するときには注意することや困っているときにできることを一人ひとりが確認できるようにする 一人ではできないことも、たくさんの人が集まればできることがあるということを感じさせる クラスで考えることで他の授業にもつながる

福祉教育推進事業担当者会議 配付用

「福祉」の授業に取り組まれる 先生のためのハンドブック ～福祉教育プログラム集～

※ 学校保管

このハンドブックは平成 29 年の総合学習主任者会で全校に配布しています。
半透明のファイル（学校保管）をご確認ください。



岡崎市社会福祉協議会
マスコットキャラクター
はぴりん

社会福祉法人 岡崎市社会福祉協議会
ボランティアセンター

はじめに

社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会（以下、「社協」という。）では小学校、中学校、高等学校を対象に福祉実践教室を実施しています。福祉実践教室は、障がい者・高齢者などの当事者やその支援者と児童・生徒がふれあいながら、実際に障がい者や高齢者の疑似体験をします。様々な人が暮らす地域社会で相手の立場を理解し、思いやりの心を育む「人にやさしいまちづくり」として日常的な福祉活動を実践するための契機となるよう開催しており、多くの小学校、中学校、高等学校で実施されています。

今回、岡崎市教育委員会および福祉実践教室講師団体の皆様に御意見をいただきながら作成したこの「福祉」の授業に取り組まれる先生のためのハンドブックは、誰もが普通に共生できる社会を目指すノーマライゼーション※1の考え方や、当事者の生活機能に着目し、その方の強みや取り巻く環境にも目を向けるICF（国際生活機能分類）※2の視点を意識し、疑似体験や当事者の話を中心に、事前の学習と事後の学習を含めた児童・生徒の気付きを発展させる福祉教育プログラムを提案しています。

児童・生徒が気付きを通して共に生きる力を育み、地域の一員として福祉への自発的・主体的な関わりが持てるようこの福祉教育プログラムを御活用いただければと思います。

もくじ

よろしく
お願いします！

社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会



第1章 福祉教育プログラムのねらいと特徴

- 1 福祉教育プログラムと福祉実践教室の特徴とちがい・・・・・・・・・・ 2
- 2 学習指導要領と福祉教育プログラムによる学習のねらい・・・・・・・・ 3

第2章 福祉教育プログラム実施にあたって

- 1 福祉教育プログラムの活用方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 2 福祉教育プログラム実施の流れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 3 福祉教育プログラム相談チェックシート・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

第3章 福祉教育プログラムの基本プラン

- プラン1：「ふくし」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ プ1-1
プラン2：「高齢者」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ プ2-1
プラン3：「車いす」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ プ3-1
プラン4：「視覚障がい」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ プ4-1
プラン5：「聴覚障がい」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ プ5-1
プラン6：「発達障がい」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ プ6-1
プラン7：「赤い羽根共同募金」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ プ7-1
プラン8：「防災を通して地域の支え合いを学ぶ」・・・・・・・・・・・・ プ8-1
プラン9：「避難所をモデルにユニバーサルデザインを考える」・・・・ プ9-1

全プログラム共通：福祉教育プログラムふりかえりシート

様式集

用語集

※1 ※2 用語集

第1章

福祉教育プログラムの ねらいと特徴

- 1 福祉教育プログラムと福祉実践教室の特徴とちがい
- 2 学習指導要領と福祉教育プログラムによる学習のねらい

福祉教育プログラムと福祉実践教室の特徴とちがい

【福祉教育プログラムの特徴】

福祉教育プログラムは「ふくし」、「高齢者」、「車いす」、「視覚障がい」、「聴覚障がい」、「発達障がい」、「赤い羽根共同募金」、「防災を通して地域の支え合いを学ぶ」、「避難所をモデルにユニバーサルデザインを考える」の9つの基本プランがあり、事前学習、体験学習、事後学習を一連としたプログラムとして考え、児童・生徒が障がい当事者や地域活動者と一緒に福祉についての学びを深めます。

福祉教育プログラムには事前学習と事後学習も含まれているよ！



【福祉実践教室の特徴】

福祉実践教室は「車いす」、「点字」、「視覚障がい者ガイド」、「盲導犬」、「手話」、「要約筆記」、「高齢者疑似体験」、「発達障がい」、「いじめ予防」の9つの体験内容があります。事前学習や事後学習は学校の先生が独自で行い、体験学習を社協から派遣する講師によって行っています。

疑似体験を通して、先生が行う事前学習や事後学習の学びを深めます。

【福祉教育プログラムと福祉実践教室のちがい】

	福祉教育プログラム	福祉実践教室
講師料	不要	不要
打合せ回数	状況に応じて	1回
実施日数	希望に応じて	1日～3日
授業の選択内容	9つの基本プラン	9つの体験
授業内容の自由度	高い	低い
授業計画の作成	社協	学校
体験用具の貸出	あり	あり
事前学習	あり	なし
体験学習	あり	あり
事後学習	あり	なし

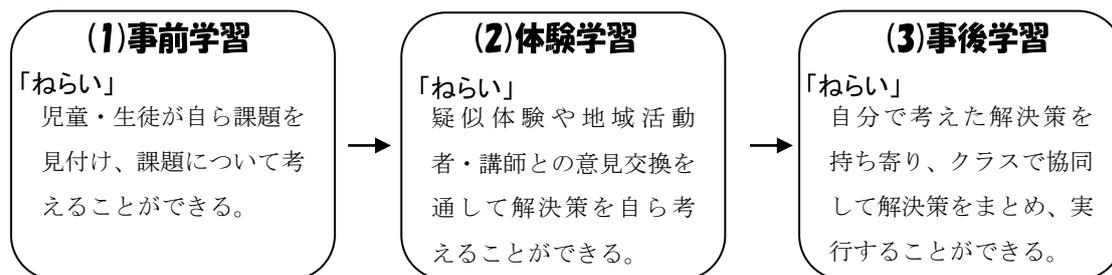
学習指導要領と福祉教育プログラムによる学習のねらい

【学習指導要領と福祉教育プログラムの関係性】

1. 学習指導要領(総合的な学習の時間)の目標は、五つの要素から構成されています。
 - (1)横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すこと。
 - (2)自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成すること。
 - (3)学び方やものの考え方を身に着けること。
 - (4)問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てること。
 - (5)自己の生き方を考えることができるようにすること。
2. 福祉教育プログラムは3つの段階に分けて学習します。
 - (1)事前学習では、地域で私たちと暮らす障がい者や高齢者の生活に焦点をあて、個人ワークを行ったり当事者の話を聞いたりします。
 - (2)体験学習では、疑似体験や児童・生徒同士、地域活動者、講師と意見交換を行います。
 - (3)事後学習では、今までの学びや考えた解決策をグループワークや発表で共有し、今後の活動に繋がります。

下図の通り、本誌は学習指導要領の目標（五つの要素）に沿って作成しています。

〈図〉



「目標」

地域で暮らす障がい者や高齢者を理解し、
地域の一員として自分や地域で何ができるかを考え、共に生きる力を育む

【使いやすい福祉教育プログラム】

プログラムの実施にあたり、総合学習の時間で「福祉」を選択される先生が持つねらいや希望の学習内容を社協担当職員が聞き取りながら、一緒に独自のプログラムを作成していきます。プログラム作成の事務的作業は社協担当職員で行うため、学校業務で多忙な先生の負担を極力減らすことができます。

また、講師の講話や疑似体験を通して児童・生徒が命の大切さや生きる力を学ぶことができるため、総合的な学習の時間のみでなく、道徳や特別活動等の他教科における指導計画と関連付けてこの福祉教育プログラムを活用してください。

福祉の授業に取り組まれる先生は、まず社協にご相談を！



【福祉教育プログラムのこれから】

今回作成した福祉教育プログラムは実施校からのアンケートや講師からの意見をもとに随時、修正や追加をしていきます。今後は地域の福祉施設に訪問したり、地域活動者と一緒に地域で活動してみたりといった新たなプログラムの開発や今あるプログラムの発展に取り組んでいきます。

第2章

福祉教育プログラムの 実施にあたって

- 1 福祉教育プログラムの活用方法
- 2 福祉教育プログラム実施の流れ
- 3 福祉教育プログラム相談チェックシート

福祉教育プログラムの活用方法

福祉教育プログラムの基本プラン1～9は福祉実践教室の実施が多い小学校5年生を対象に作成していますが、小学生から高校生までの**希望する学年に合わせたプログラムを先生の要望を聞き取りながら一緒に考えていくため、小学校・中学校・高等学校と幅広く実施することができます。**

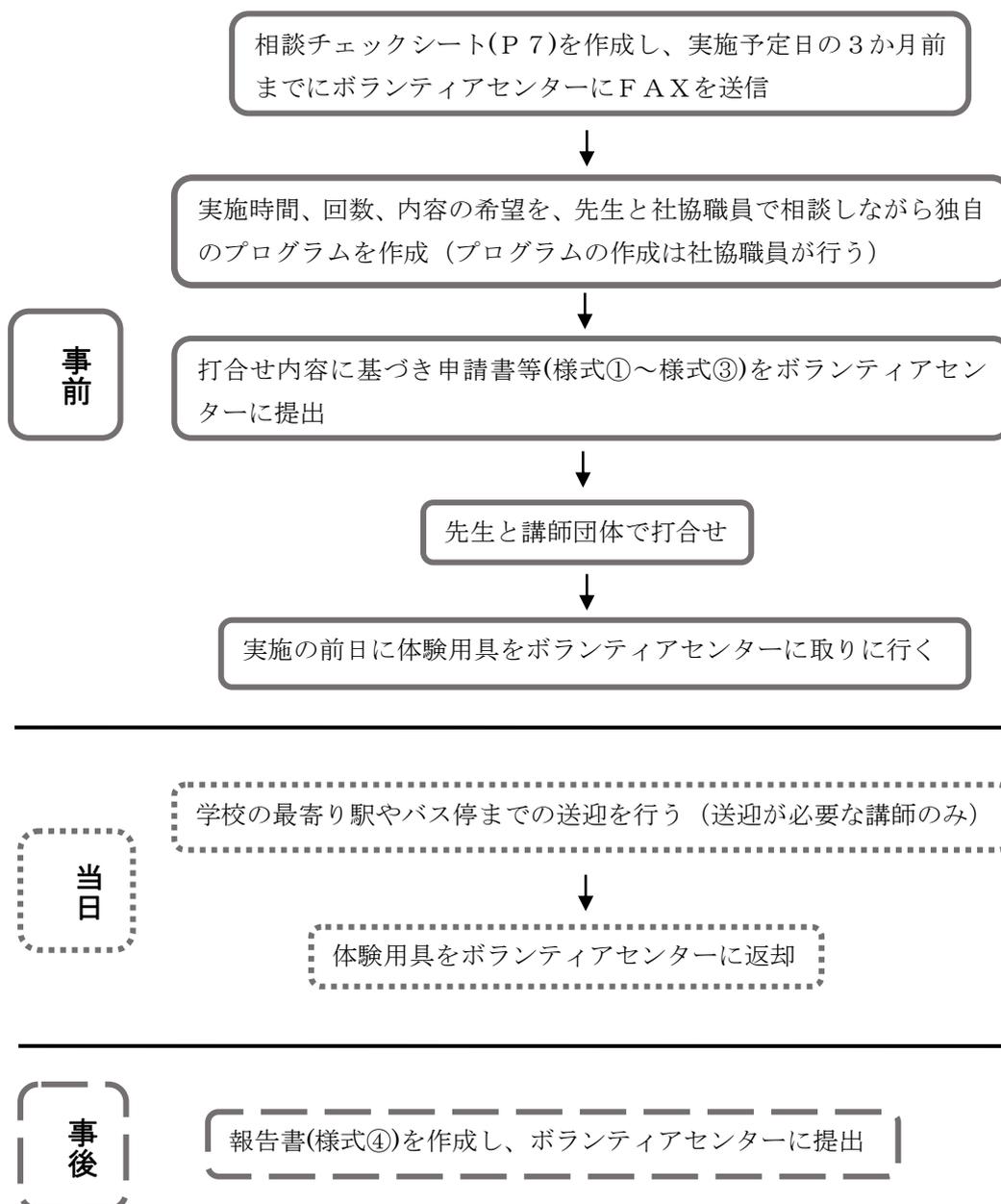
また、福祉教育プログラムの基本プランには時間や回数が記載されていますが、**学校の希望する時間や回数にできる限り合わせながらプログラムを作成することも可能です。**

福祉教育プログラム実施の講師派遣に係る費用(講師料や交通費)は、社協で負担しますので授業で使用する備品等の準備のみで実施することができます。

先生と一緒に福祉の授業を考えます！



福祉教育プログラム実施の流れ



福祉教育プログラム相談チェックシート

福祉教育プログラムをご利用いただくために、前にこのシートを作成し、社協に送信してください。このチェックシートをもとに打ち合わせを行います。

まずはお気軽にご相談ください。

学校の情報	_____ 小学校・中学校・高校 学校の電話番号 _____ F A X _____ 担当の先生の氏名 _____ 先生のメールアドレス _____
目的・ねらい 子どもたちに伝えたいこと 学ばせたいこと	
希望する内容	<input type="checkbox"/> ふくし <input type="checkbox"/> 高齢者 <input type="checkbox"/> 車いす <input type="checkbox"/> 視覚障がい <input type="checkbox"/> 聴覚障がい <input type="checkbox"/> 発達障がい <input type="checkbox"/> 赤い羽根共同募金 <input type="checkbox"/> 防災を通して地域の支え合いを学ぶ <input type="checkbox"/> 避難所をモデルにユニバーサルデザインを考える <input type="checkbox"/> その他
実施予定日 現在の予定	【時期】 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 1学期 <input type="checkbox"/> 2学期 <input type="checkbox"/> 3学期 【回数】 <input type="checkbox"/> 2回講座 <input type="checkbox"/> 3回講座 <input type="checkbox"/> それ以上 ____回講座
対象と人数	<input type="checkbox"/> 全校で行う 約 ____ 名 <input type="checkbox"/> 学年で行う ____ 年生 約 ____ 名 ____ クラス <input type="checkbox"/> 学級で行う ____ 年 ____ 組 約 ____ 名 <input type="checkbox"/> その他 _____
その他	福祉教育で悩まれていることなど、どんな事でもご自由にお書きください。

【相談チェックシートご提出先】

岡崎市社会福祉協議会ボランティアセンター

〒444-0802 岡崎市美合町五本松 68-12 福祉会館 1階

TEL : 0564 - 47 - 7955 FAX : 0564 - 47 - 7956

E-mail : okashavc@m2.catvmics.ne.jp

ご連絡をお待ち
しています！



第3章

福祉教育プログラムの 基本プラン

プラン1 : 「ふくし」

プラン2 : 「高齢者」

プラン3 : 「車いす」

プラン4 : 「視覚障がい」

プラン5 : 「聴覚障がい」

プラン6 : 「発達障がい」

プラン7 : 「赤い羽根共同募金」

プラン8 : 「防災を通して地域の支え合いを学ぶ」

プラン9 : 「避難所をモデルにユニバーサルデザインを考える」

全プラン共通 : 福祉教育プログラムふりかえりシート

高齢者

【モデル対象】 小学校 5 年生

【時間】 90 分 × 3 回

ねらい

高齢者が当たり前で生活できる地域社会の実現のため、地域の一員としての使命と役割があることを認識し、自覚が持てるようになる

学習計画

	授業テーマ	想定講師	学習内容
①	高齢者の生活を知ろう	・ 社協職員 ・ 地域住民	・ 高齢になるとどうなるか ・ 地域での高齢者福祉を知る ・ 高齢者の生活を知る ・ 高齢者の福祉用具の紹介 ・ 困りごとを考える
①	高齢者疑似体験をしてみよう 	・ 講師団体	・ 2人1組になって疑似体験をする ・ 困りごとの検証 ・ どうすれば困りごとを解決できるかグループ討議 ・ 自分たちにできることを考える
②	僕たち、私たちにできることを考えよう	・ 社協職員 ・ 地域住民 ・ 学校の先生	・ まとめ ・ グループ討議…グループごとに自分たちの感想、できること、意見等を述べる ・ また、今後どうしていったら良いかを話し合う ・ 話し合いをまとめ、発表する ・ 評価

目標

- ・ 講話を通して、日常生活などの話を聞き、困りごとを考えることができる（関心・意欲・態度）
- ・ 自分やグループ、クラスで高齢者の困りごとや解決策を考えることができる（思考・判断・表現）
- ・ 体験を通して「加齢」を理解したうえで、自分たちにできることを考え、行動することができる（技術）
- ・ 高齢者の理解と自分たちの出来ることをまとめ、発表することができる（知識・理解）

ねらい・ポイント	準備物品	先生へのお願い
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者のイメージをつかめる ・ 高齢者の生活を知る ・ 加齢のために困ることを考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉用具 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ分け
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の特徴や不便さを感じる ・ 困りごとを解決する方法を考える ・ みんなの前で意見を述べるができる ・ 思いや考えが違っていても、受け入れ、歩み寄ることの大切さを知る ・ 自分たちができることはあるのか考えられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験用具 ・ 模造紙 ・ 付箋 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要物品の用意 ・ 児童のペア組み ・ 体験コースの決定
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者のことを理解し、感じたこと、できることをまとめる ・ みんなの前で発言することができる ・ 思いや考えが違っていても、受け入れ、歩み寄ることの大切さを知る ・ 地域の一員としての使命と役割を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 模造紙 ・ マジック ・ 画用紙 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要物品の用意 

① 高齢者の生活を知ろう 90分

目標

「高齢者とは」を学び、高齢者が生活の中でできること、大変なことをイメージする
想定される講師と準備物

講師：社協職員、地域住民

備品：福祉用具

プログラム

学習活動	時間	指導上の留意事項
◎高齢になるとどうなる？ ・高齢になると体や心はどうなるかを考え、発言する	10	・家族や近所の高齢者をイメージさせ、体や心の変化を感じられるようにする ・心の面は思いつきづらいので様子を見てヒントを出す ・意見が出ないときはクイズにする
◎地域での高齢者福祉って？ ・地域での福祉活動について話を聞く	20	・学区福祉委員会の存在を伝える ・地域で実際に活動している人の話を聞き、持っていたイメージと実際との違いを感じさせる ・地域の高齢者の現状と、それに関わる活動の内容や大変さを伝える
休憩	5	
◎高齢者の生活を知ろう ・高齢者の生活の話聞く ・高齢者が生活の中で感じる困りごとや思い通りにいかないことなどの話を聞く	10 10	・話のなかで知っていたこと、知らなかったことに気付かせる ・高齢者が感じる苦労や、思い通りにいかないことなどを聞き、高齢者が持つ困りごとに気付かせる ・地域に住む高齢者がどんなことに困っているのか感じさせる
◎できること、大変なことを考えよう ・自分たちと同じところや違うところを挙げる	20	・グループに分ける ・できることの気付きを大切にコメントする
◎高齢者が使用する福祉用具って？ ・高齢者が使用する福祉用具の説明を聞く ・使い方や効果の話聞く	15	・あまり答えが出過ぎないように紹介は少しにし、使い方や効果、それぞれの福祉用具について気を付けることなどを伝える ・困りごとの解決にはいろいろな方法があり、福祉用具などの道具があることを伝える
◎高齢者の困りごとを考えよう ・高齢者が感じる困りごとや、児童自身が感じた高齢者が大変そうだと思うことを考える	宿題	・高齢者の持つ困りごとについてよく考えてもらおうきっかけにする

② 高齢者疑似体験をしてみよう 90分

目標

高齢者疑似体験を通して、高齢者の特徴や不便さを実体験する
 前回考えた困りごとに対して解決策を考える

想定される講師と準備物

講師：講師団体

備前カレッジ 高齢者疑似体験セット、模造紙、付箋

学習活動	時間	指導上の留意事項
◎高齢者疑似体験をしてみよう ・部分的な体験の中から好きなものを選び体験する	4 5	・体験が遊びにならないように、体験の目的や意味をしっかりと伝える ・高齢者が感じる大変さや解決策のヒントを得るために考えてきた困りごとを実体験させる
休憩	5	
◎困りごとの解決策を考えよう ・グループに分かれ、一人ずつ自分が思った困りごとを発表し模造紙に書く ・グループで、誰が書いた困りごとでもいので、思いつく解決策を付箋に書いて貼る	2 5	・いろいろな解決策を取り入れられるよう困りごとをグループで共有させる ・1つの困りごとに関してみんなで考えることで、グループ全員がより多くの困りごとや解決策を知り、考えることができるようにする
◎発表しよう ・みんなの前で、グループで挙げた困りごとと、付箋に書かれた解決策を発表する	1 0	・お互いに知識を深めるために、グループで話し合ったことを他のグループに伝えられるようにする ・グループでの考えの違いや解決策の違いの中で、方法は違っても受け入れ、歩み寄ることの大切さを感じさせる
◎宿題について ・場面設定や環境の説明を聞く	5	・すべての児童が、できることを考えやすいよう場面を設定する
◎自分が高齢者にできることを考えよう ・グループで挙げた困りごとの解決策を見て、実際に自分にできることは何か考える ・自分にできること、自分には難しいがお父さんやお母さん、地域の人ならできることを挙げてみる	宿題	・実際に自分にできることを考えることで家族や地域など、大人ができることを考えてもらうきっかけにする ・1日の復習の時間を作るために宿題を出す ・グループで出た解決方法をもとに自分なりにできることを児童主体で考えさせる

③僕たち、私たちにできることを考えよう 90分

目標

自分にできることを発表し、クラスメイトに紹介する
グループに分かれ、クラスとしてできることを考える

想定される講師と準備物

講師：社協職員、地域活動者、学校の先生

備品：模造紙、ペン、画用紙

プログラム

学習活動	時間	指導上の留意事項
◎自分ができることを発表しよう ・自分ができることをみんなに発表する ・いつ、何をやってみるのかを具体的に発表の中に入れる	30	・自分ができることを発表し、これから取り組むことをクラスメイトに知ってもらう ・すぐに取り組めることを挙げることで、積極的に取り組むきっかけにする ・難しいことではなく、簡単にできることを挙げてもらうように配慮する
◎社協職員、または地域活動者、または先生の話 ・発表に対する感想を聞く	10	・たくさん褒めることでやる気と興味を持ち続けるきっかけにする ・これからの高齢者福祉の参考になるよう、専門的な話を入れながら伝える
休憩	5	
◎クラスでできることを考えよう ・グループに分かれ、クラスでできることを1つずつ考える	25	・自分だけでなく、クラスでできることを考えることで、協調性を身につけさせる ・一緒に1つのことを考える大切さを感じさせる
◎クラスのできることをルールを作ろう ・グループで考えたクラスでできることを1つ発表し、画用紙に記入する ・すべてのグループのできることを記入し、できごとルールを教室に掲示する	20	・クラスでできることを1つの紙に記し、高齢者と接するときには注意することや困っているときにできることを一人ひとりが確認できるようにする ・一人ではできないことも、たくさんの人が集まればできることがあるということを感じさせる ・クラスで考えることで他の授業にもつながる

令和 4 年度 福祉教育プログラム実施状況

R4 年度実績

小学校・・・5校
 中学校・・・1校
 高 校・・・1校
 合 計・・・7校
 (延べ開催日数67日)
 延べ・・・3,071人

R3 年度実績

小学校・・・7校
 中学校・・・1校
 高 校・・・1校
 合 計・・・9校
 (延べ開催日数68日)
 延べ・・・3,350人

R2 年度実績

小学校・・・4校
 中学校・・・0校
 高 校・・・1校
 合 計・・・5校
 (延べ開催日数43日)
 延べ・・・2,357人

【科目別】(延べ)

令和 4 年度

プログラム名	日数	時間数	人数
ふくし・ユニバーサルデザイン	3	4	188
高齢者	7	9	419
車いす	8	12	435
視覚障がい	9	13	518
聴覚障がい	12	13	378
発達障がい	2	2	23
避難所をモデルにユニバーサルデザインを考える	21	27	881
その他(事前学習や事後学習など)	18	18	434

令和 3 年度

プログラム名	日数	時間数	人数
ふくし・ユニバーサルデザイン	10	10	556
高齢者	10	16	615
車いす	13	20	800
視覚障がい	13	21	719
聴覚障がい	15	21	620
発達障がい	1	1	19
避難所をモデルにユニバーサルデザインを考える	16	17	255
その他(事前学習や事後学習など)	14	14	496

令和 2 年度

プログラム名	日数	時間数	人数
ふくし	2	2	230
高齢者	4	10	446
車いす	5	10	342
視覚障がい	9	13	393
聴覚障がい	7	10	249
避難所をモデルにユニバーサルデザインを考える	14	14	84
その他(事前学習や事後学習など)	9	9	613

【学校からの感想】（一部抜粋）

●小学校

- ・高齢者の人や障がいのある人に気持ちを考えることができた。
- ・教員には教えるのが難しい内容であり、言葉ではわかっても心に残らないため講話や体験をしていただけるとはすごくありがたい。
- ・福祉実践教室では児童に感想を書かせてまとめとしていたこともあったが、振り返りの時間を作っていただき、児童がこれからできることを考えるきっかけになった。

●中学校

- ・障がいがあることは不便なこともあるが、いろいろな工夫をして生活されていて不幸ではないということが分かった。
- ・体験学習だけでなく、障がいのある当事者からのお話しは生徒の印象に残った。
- ・障がいのある方の話を聞くことで、困り感を知ることができたため、生徒は自分たちに何ができるか考えるきっかけになった。

●高校

- ・講師の先生のお話しの中で、マイナス面だけでなくプラス面のお話しをしていただけたので色々な生活の工夫をするなかで、苦手な所をサポートさせていただくことが大切ということを知ることができた。
- ・講師の先生に仕事の様子や趣味の活動をお聞きし、特別なことではなく私たちと何も変わらない生活をしていることが分かった。
- ・ユニバーサルデザインを考えたが、障がいの特性や、人によってもベストな環境が変わるということがよく分かった。物理的な解決は難しくても人的な解決で力を発揮できるようにになりたい。

愛社協第103号
令和5年4月14日

関係学校長様

社会福祉法人愛知県社会福祉協議会
会長 鈴木雅雄
(公 印 省 略)

令和5年度福祉体験作文コンクールの実施について（依頼）

日ごろは、本会事業の推進にご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、令和5年度福祉体験作文コンクールを別添の要項により実施いたしますので、ご応募くださいますようお願いいたします。

応募は、令和5年9月15日(金)までに学校のある市町村の社会福祉協議会にしていただきますようお願いいたします。

(連絡先) 地域福祉部 担当 三浦

TEL 052-212-5502

FAX 052-212-5503

令和5年度福祉体験作文コンクール募集要項

1 趣 旨

児童・生徒が、学校内外で体験する福祉活動やボランティア活動は自己の幅を広げるための豊かな経験となるものであり、ともに生きる福祉の心を育ててくれるものです。

こうした経験を通して感じたことや考えたことを、素直な気持ちで作文に表わしたものが心に残り、日常生活の中で広がっていくことを期待して、福祉体験作文を募集します。

2 主 催

社会福祉法人愛知県社会福祉協議会

3 応募対象

趣旨に賛同する愛知県内（名古屋市を除く）の小・中・高等学校及び特別支援学校の児童・生徒

4 応募作品の内容

学校での福祉実践教室やボランティア活動等の体験、地域や家庭、身近なところでの体験について、自分の考えや感じたことを表現したものとします。

5 部 門

- (1) 小学校低学年の部（1～3年生）
- (2) 小学校高学年の部（4～6年生）
- (3) 中学校の部
- (4) 高等学校の部

6 作品規定

- (1) 400字詰め原稿用紙（タテ書）を使用し、各部門の枚数制限は次のとおりとします。

ア 小学校低学年（1～3年生）	1～3枚以内（400字以上1,200字以内）
イ 小学校高学年（4～6年生）	2～4枚以内（800字以上1,600字以内）
ウ 中学校・高等学校	4～5枚以内（1,600字以上2,000字以内）

※題名は1行目、学校学年氏名は2行目、本文は3行目から1マス空けて書いてください。

- (2) 応募作品は、原則として自筆に限ります。ただし、障害等の場合はその限りではありません。その旨を明記してください。
- (3) 応募作品には、所定の応募票を添付してください。

7 応募規定

- (1) 小学校及び中学校の応募数は各部門2編以内、高等学校は3編以内とします。

(参考)

小学校低学年	1校につき	2編以内（1～3年生）
小学校高学年	1校につき	2編以内（4～6年生）
中学校	1校につき	2編以内
高等学校	1校につき	3編以内

- (2) 応募作品は、未発表のものに限り
- (3) 応募作品は、理由のいかんにかかわらず返却しません。

8 応募方法

下記の応募票を添付し、学校のある市町村の社会福祉協議会に令和5年9月15日(金)までに応募してください。

9 選考

選考委員会を設けて、部門ごとに入選作品を合計25編程度選考し、令和6年2月(予定)に発表します。

10 表彰等

入選者には賞状、副賞及び優秀作品集を贈呈します。

11 作品集の作成等

入選作品を掲載した優秀作品集を作成するとともに、入選作品は愛知県社会福祉協議会ボランティアセンターのホームページに掲載します。

12 問合せ先

社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 地域福祉部

〒461-0011 名古屋市東区白壁1丁目50

TEL 052-212-5502 FAX 052-212-5503

..... き り と り

No. _____

年 月 日

令和5年度「福祉体験作文コンクール」応募票			
題 名			
フリガナ 学 校 名		学 年	年
フリガナ 氏 名		枚 数	枚

■地元の社会福祉協議会へ送付してください。

作品規定 400字詰め原稿用紙(タテ書)を使用し、各部門の枚数制限は次のとおりとします。

- ・小学校低学年(1~3年生) 1~3枚以内(400字以上1,200字以内)
- ・小学校高学年(4~6年生) 2~4枚以内(800字以上1,600字以内)
- ・中学校・高等学校 4~5枚以内(1,600字以上2,000字以内)

※題名は1行目、学校学年氏名は2行目、本文は3行目から1マス空けてください。

※応募作品に必ず本票を添付してください。



社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会
〒444-0802
岡崎市美合町五本松 68-12
生活支援課 障がい係

TEL (0564) 47-8750
FAX (0564) 47-8753
【Eメール】

seikatsu@okazaki-shakyo.jp



岡崎市 手話通訳者 要約筆記者 派遣事業のご案内

※岡崎市内在住の聴覚障がい者の
コミュニケーションを支援します



りよう もうしこ
《利用の申込み》

※ 1週間前までに派遣申請書を提出してください。
(申請書は社協ホームページからダウンロードできます)

※わからないときはメール、FAXで相談してください。

※手話通訳者・要約筆記者には守秘義務があります。

じゅうたく
住宅

- ☆入転居などに関する話合い
- ☆土地、家屋の購入・修理など

その他

- ☆弁護士への相談
- ☆銀行・生命保険会社など
- ☆市及び市内福祉関係団体の主催する大会、
行事、会議など

しゅわつうやくしゃ
手話通訳者

厚生労働大臣認定手話通訳士及び手話通訳者全国統一試験合格者が
派遣されます

ようやくひっきしゃ
要約筆記者

全国統一要約筆記者認定試験合格者及び要約筆記奉仕員養成講習会
応用課程の修了者が派遣されます

●費用は岡崎市が負担します。

●わからないことは、メールまたはFAXで確認してください。

いりょう
医療

- ☆診療 ☆入院
- ☆健康診断など



こうてききかん
公的機関

- ☆公的機関へ相談、
申請、手続きなど



しゅうろう
就労

- ☆就職面接など



きょういく
教育

- ☆入学式 ☆卒業式
- ☆総会 ☆授業参観など

ちいきせいかつ
地域生活

- ☆冠婚葬祭
- ☆自治会等会合への参加

